

第2回 宇部市石炭記念館あり方検討委員会 議事録

日時：令和5年3月29日（水）15：00～17：00

場所：ときわ湖水ホール 大展示ホール

出席者

（委員）

岡松 道雄	内田 鉄平	吉武 善幸	脇 和也	
古谷 博司	柳田 英治	藤永 徹也	大塚 義雄	
真宅 裕一	森重 孝介	石津 洋子	藤川 修三	平井 貴大

（宇部市）

観光スポーツ文化部長	富田 尚彦	同部次長	白井 幸雄
ときわ公園課長	東原 隆	同課管理係長	小島 健一郎
同課主任	西岡 優	同課係員	久保 綾佳
同課学芸員	廣畑 公紀		

《第2回会議》

1 委員長による開会あいさつ

(委員長) 前回(2/13)の検討委員会では熱心なご意見をいただきました。今回も内容の濃いものにしたいと思っております。みなさまには忌憚のない意見をお願いします。

2 会議

(事務局) これ以降の議事進行につきましては、委員会設置要綱第5条第1項の規定により、委員長が議長になることとなりますので、委員長をお願いいたします。

なお、本日の会議ですが、委員の皆様にご出席いただいておりますので、設置要綱第5条第2項の規定により、本会が成立していることを、ご報告申し上げます。

それでは、委員長よろしくをお願いいたします。

(委員長) それでは、次第の2

「日本の炭鉱遺産の活用状況と山口県の課題について」です。若い世代からの意見も、宇部市石炭記念館の今後のあり方に反映できればと思い、今回発表の場を設けました。

岡松副委員長、ご紹介をお願いします。

(副委員長) こちらの学生は、山口大学工学部感性デザイン工学科在籍の伊藤友梨です。彼女が、去年1年かけて卒業論文のために全国の炭鉱遺産について調べ、先月の建築学会中国支部で発表させていただいたものを、今回お時間をいただいて、発表させていただきます。

学生による発表

(副委員長) なにかご質問等ございますでしょうか。

(委員) 残り方がそれぞれ違うので、遺産の考え方・残し方を、時間軸・企業の考えをベースとして考えると、またおもしろい結論が出るのではないか、と思いました。

(委員長) 伊藤さんありがとうございました。炭鉱に着目されたということに、まず敬意を表したいと思います。また、素晴らしい卒業論文になることをお祈りしております。

- (委員長) 続きまして、次第の3の議題に入ります。
市民アンケートの結果について、石炭記念館の課題抽出について事務局から説明をお願いします。
- (事務局) 資料「宇部市石炭記念館に関するアンケート調査 実施結果」及び「第2回宇部市石炭記念館あり方検討委員会」に基づき説明を行う。
- (委員長) それでは、これらの資料を基に、課題の抽出を行いたいと思います。
委員の皆様、ご意見等、お願いします。
- (委員) 石炭記念館のこれからを考える上で、キーコンセプトは何かの議論が先ではないか。市民のための歴史教育の場として残していくのか。近代化産業遺産の切り口で見ていく必要があるが、現状、展示して終わりでストーリー性がない。産業遺産でもあるが、独自の文化を築いてきた文化遺産でもある。その辺りをアピールすることを含めて観光資源として活用するかどうか議論する必要があるのではないだろうか。
- (委員長) 炭鉱自体は遺産だが、エネルギーとしては現在でも関わってくる話。
歴史教育はもちろん必要だが、過去を見つめて未来を見据えることも重要。観光資源としての立場からはどうだろうか。
- (委員) 観光資源としても大切な資源だと考えている。イベントがうまくいけていないし、建物の老朽化もどうにかしないといけない。
金銭的な面を度外視した意見を述べさせてもらおうと、早急にリニューアルをし、安全対策をしてほしい。展示についてもストーリー性を高め、VR等のデジタル化なども変われば、イベントが打てるようになり観光としてはありがたい。インバウンドを考える上でも重要で、ぜひ残してほしい。
- (委員) 観光の観点から、日本遺産の登録を視野に入れてはどうだろうか。
地域の独自性もあり、文化庁に申請すれば通るのではないだろうか。登録できれば市民の愛着へとつながるのではないだろうか。
- (委員) 課題に挙げられていたハード面についてだが、石炭記念館を単独で考えるのではなく、ときわ公園のコンテンツとして考えるべきではないだろうか。ときわ公園の入口として、案内を抜本的に見直さないといけないと思う。正面入口を利用する人は少なく、東駐車場や西駐車場を利用する人が多いと思うので、公園全体としての案内看板や導線を考えないといけない。個でなく、ときわ公園全体の活かし方として考える必要が

ある。

また、石炭記念館に遺産や展示物があまり残されていないことについても、宇部が海底炭鉱であったからというのがUBE株式会社としての見解。VRなどで海底の坑内を再現するなど、残されていないことも宇部特有の事情によるものなので、そこを逆手にとって活かすことができるのではないか。当社内にある沖ノ山電車竪坑櫓についても、敷地内で保存されているので一般の方に開放するというのはなかなか難しい。現在、文化財指定されているのは櫓の基礎である石垣のみであるので、櫓も含めて遺産登録をして価値を上げる方向にもっていくのか、それとも気軽に触れることができる存在とするのか考える必要があると思う。

(委員) 導線に関して同意見。SLにダブルストレーラーを置いてはどうだろうか。日本に唯一宇部にしかないのも、観光資源になるのではないだろうか。

(委員) ストーリーについてその通りと思う。マスコミ的にもストーリー性・一貫性があれば取材がしやすい。軍艦島デジタルミュージアムは世界遺産をきっかけに、ストーリーを作った。ストーリーのたてつけが重要。

場所について、わかりにくく行くのに苦労したので、導線についても重要だと思う。

VRについて、軍艦島デジタルミュージアムは子どもが喜んでいる。地元のITベンチャー企業と連携している。宇部市も「共創」の観点から考えるべきではないだろうか。また、市長がメタバース空間でVTuberとコラボしていた。メタバース空間が発展すれば手触りのある現実空間の価値も求められる。実際に来た人に感じてもらえるものが必要だと思う。

(副委員長) ストーリー性について、石炭記念館を単体でみるのではなく、公園全体としてみる必要がある。「宇部の個性をどう表現するか」で宇部の個性を視覚化できるのではないか。

観光については、以前は名所に行って観光というスタイルだったが、最近では地元の商店街が観光スポットとなっている。ときわ公園や石炭記念館を、私達宇部市民がどう楽しめるかが課題となる。過去の遺産だけではなく、未来につながるようにすることも必要ではないか。

(委員) 子どもたちから聞き取ると、アンケートの内容と同じような内容を答えている。「物がならべてあるだけでおもしろくない」、「説明文が書いてあるが理解できない」、「これからのエネルギーについても学べる場所を」といった意見が出た。子どもたちが科学技術に興味を持っているので、石炭の歴史だけではなくエネルギーの歴史も展示できるとよい。

- (委員) 若い世代は、そもそも石炭は何か知らない人も多い。我々も石炭の歴史について何を知っているのか。石炭とは何か、石炭記念館とは何か、自分たちも知る必要がある。また、石炭の歴史といっても長いスパンの歴史があるわけで、中世なのか近世なのか、近代なのか現代なのか、どの部分を主軸にとらえるのかも考えないといけない。
- (委員) 学校教育の立場として、市民アンケートにおいて「石炭産業によって宇部が発展したことをどのようにして知ったか」という問いで、10代の100%が「学校の授業や行事」と回答していることから（〔註〕「市民アンケートの結果について（R4年度）」p.3）、宇部の子どもたちは学校のカリキュラムを通して石炭産業によって発展した地元の歴史を知っている。ここから子どもたちが石炭記念館に行きたいというようになるにはどうしたらいいのか。また問11の「より多くの方に石炭記念館を利用していただくためには何が必要か」（〔註〕前掲資料p.9）についても、体験を重視しているものが圧倒的に多い。石炭や地元の歴史に愛着をもつようなどころまで持っていければ。
- (委員) 石炭記念館は宇部の財産である。個々だけでなく、宇部市全体の遺産として考えていければと思う。
- (委員) 石炭は宇部市のファミリーヒストリーで、それに対して大事にしない人はいないはず。石炭産業によって発展したこの地域は、価値があるので売れるコンテンツのはずである。以前、沖縄に行った際に宇部の炭鉱で働いていたことがあるという人に出会ったことがある。このように日本全国にも宇部に何かしらで関係した人たちがいるので、インバウンドももちろんだが、ホームカミングとしての需要も高いと思う。日本遺産や県の文化財指定も良いが、宇部遺産として考える必要もあるかと思う。
- (副委員長) ストーリー等どう整理するか、建築としてどうするか、を並行して進めるべき。石炭記念館の隣接地に宅地跡（〔註〕旧山縣家宅地跡）からのアプローチをつくることができないか。また、先日石炭記念館の屋上に案内していただいた際に伺ったが、石炭記念館が立地するあたりは、江戸時代に宇部の領主であった福原氏が領地視察の際の休息地としていたという御駕籠立場の伝承がある土地でもあるということで、屋上からはその雰囲気がよく伝わる。ハード面やソフト面も融合させながら議論を進めていくことも必要かと思う。
- (委員) 我々の提言がどう反映されるのか。費用等含めて宇部市の具体的な考

え方があれば教えてほしい。

(事務局) 費用面を提示するのは難しい。市として石炭記念館をなくすということとは考えていない。この委員会では、今後石炭記念館をどのように活用するのか、どういう姿にしたいのか、議論していただきたいと考えている。

(委員長) 石炭産業はマテリアルでもあるが、石炭産業が作り出した文化もある。石炭産業が生み出した全国的にも数少ない文化も資料を活用しながら、可視化してアピールしていけたらと思う。

以上で、第2回宇部市石炭記念館あり方検討委員会を終了いたします。本日の議事はすべて終了しましたので、進行を事務局に戻します。円滑な議事の進行にご協力をいただき、ありがとうございました。

(事務局) 委員長、ありがとうございました。

それでは、第3回開催につきましては、5月下旬から6月中旬を予定しております。また、改めて日程調整等ご案内いたしますので、委員の皆様、よろしくお願いいたします。